50周年にあたって

青森県農林水産部長　一　戸　洋　次

このたび、青森県ふるさと食品研究センターの前身である青森県水産物加工研究所が昭和31年に開設されて以来、創立50周年を迎えることになりました。

昭和30年代はイカの豊漁が続き、大漁貧乏による大きな損失を受けておりました。県では、この状況を打開し、イカの高度利用を図るため、当時鰺ヶ沢町にあった水産試験場の製造部門を独立させ、イカの一大生産地である八戸市湊町に青森県水産物加工研究所を誕生させましたが、業界からの期待が大きかった半面、開設当初は施設設備も少なく初代荒木所長初め職員の方々のご苦労は計り知れないものがあったと聞いております。

その後、昭和33年１月に待望の新庁舎、加工場が新設されて本格的な加工研究が始まり、イカ、サバ、イワシ、ホタテガイ、サケなどの本県を代表する資源について、時代のニーズに合わせた加工品の開発・研究に取り組んできました。

このような中で、皮付きサキイカやホタテマヨネーズ缶詰、ツルツルワカメをはじめ、最近では低アミロース米を使った押し寿司など数々の商品を世に送り出してきたほか、加工相談や技術指導等を通じて、本県水産加工業の発展に貢献してきました。これもひとえに、先輩諸氏の労を惜しまないご努力の賜物と水産加工・漁業関係者各位の暖かいご支援の賜物であると考えており、心より敬意を表し感謝申し上げます。

今後、「攻めの農林水産業」の更なる展開を図っていく上で、ふるさと食品研究センターが水産加工のみでなく、農林水産全般にわたる食品加工研究の中軸としての役割を果たし、本県農林水産業の発展に大きく寄与できるよう一層の努力を傾注して参ります。